40_{周年}

第3集(2019年発行)

湘南ペガサスの歩み



湘南ペガサスの歩み

第3集(平成15年~31年)

目 次

1. 巻頭言	湘南ペガサス40周年に寄せて	初代代表	柳川 明信	1	
2. 会長挨拶	ペガサスと私 会長	・トーラス 60 監督	森 秀樹	2	
3. お祝辞					
3. 1	ペガサス・40周年に寄せて		鈴木 中	3	
3. 2	神奈川制覇! 湘南福	高校サッカー部顧問	竹谷 睦	4	
4. 歴代代表・	会長の回想				
4. 1	見果てぬ夢	第2代代表	井上 孝	5	
4. 2	ペガサス発足時のエピソード	第3代会長	牧村 英樹	6	
4. 3	恵まれたサッカー環境	第4代会長	田部井 徹	7	
5. ペガサス 7	0				
5. 1	ペガサスとともに	70 代表	小杉 溥孝	8	
5. 2	0-60 チームの開始から 0-80 へ	70 前代表	中原 弘巳	9	
5. 3	年齢(トシ)を感じるこの頃	シニアリーグ理事	伊通 元康	10	
5. 4	ペガサス40周年記念に思うこと	70 監督	坪井 繁樹	11	
5. 5	ペガサスに入会して	70	磯谷 兵衛	12	
6. ペガサス60(トーラス 60、ペガサス 65、ペガサス 60)					
6. 1	トーラス 60 発足の経緯	トーラス 60 代表	浅倉 泰	13	
6. 2	交通事故からの復活!!	トーラス 60	河西 博康	14	
6. 3	小生とサッカー	ペガサス 65 代表	黄瀬 直彦	15	
6. 4	湘南 vs 栄光	ペガサス 65	角皆 茂樹	16	
6. 5	ペガサス40周年記念寄稿	ペガサス 60 監督	菅浦 義治	17	
6. 6	ペガサス 40 周年に寄せて	ペガサス 60	小石 巌	18	
6. 7	お楽しみはこれからだ	ペガサス 60	吉田 京太	19	
7. ペガサス 5	5 O				
7. 1	ペガサスとの出会い	50 監督	福井 康展	20	
7. 2	創立 40 周年おめでとうございます	50 前監督	新川 茂	21	
7. 3	ペガサスとの出会い	50	田中 晃	22	
7. 4	シニアサッカーの面白さ	50	椿 茂樹	23	
7. 5	ペガサスとの出会い	40 元監督	山本 純弘	24	

8. ペガサス 4 0

8. 1	思いで広がるペガサスの翼	40 代表	大隈	俊	25
8. 2	お前も当然入るよな?	40 監督	井上	毅彦	26
8. 3	湘南高校との僥倖	40	安藤	聡佑	27

弔 辞 初代代表柳川明信を悼む (本年11月6日に逝去されました) 中原 弘巳 28

《添付資料》

湘南ペガサスサッカークラブ活動記録 1978~2018 湘南ペガサスサッカークラブ戦績

湘南ペガサス40周年に寄せて

初代ペガサス代表 0B 会元会長 柳川 明信

40周年の発展を続けてきたことは、多くの仲間の参加と努力の積み重ねと思います。

成長の要因を考えてみました。

まず、「湘南」の名を冠していること。誇り高き旧制湘南中学蹴球部の流れを継ぎ、現役支援の中心的存在であることを示し、岩淵二郎先輩の命名と支援の依頼にあります。

次に発足から長い間チームの組織が固まるまで運営の主務をつとめてくれた、 大内君 (31回)・井上君 (36回)、試合・大会参加など運行面で中心になっ た中原君 (30回)・山本修君 (27回)。この競技面とチーム運営面がよく助 け合って続けてこれたことです。

また湘南OB以外の同好の人々の参加を求め、メンバーの増加・競技力の向上に努めてこれだけの大きなクラブになったこと。

発展の過程で40代が50代になり、60代・70代と年を重ねていく都度、 年代別のチームを編成、クラブの層を厚くし、新たに40代になる湘南OBの 参加も求め、年代が途絶えることなくOB会との連携も引き継がれてきました。

次に年代別チームを独立させ、チーム運営に独自性を持たせ、本部がこれら を統括すると云う組織改革が上手く軌道にのり、各年代のメンバーが夫々プレ ーを楽しみ、全国レベルの大会にも積極的に参加するようになりました。

現役支援がクラブの基本にあるようにOB会とよく連携し、OB会役員もペガサス会員が多く占め、まさに一体化して支援にあたることが出来てきました。

私達が40年前ペガサス設立の時から岩淵さんから託された(強固なOBチームが現役を支えつづける)がほぼ確立できたと考え、私の役割はほぼすんだと思い、ペガサスを勇退しました。

湘南サッカー100年、OB会関係の方々と共にペガサス全員を祝おうではありませんか。

(ペガサス創立メンバー OB会元会長)

湘南ペガサスと私

-40 周年、そしてその先へ-

会長、トーラス 65 監督 森秀樹

私は湘南高校 46 回生です。高校、大学、サラリーマン時代とサッカーをしてきました。30 代で海外の仕事が多くなり、しばらくグランドから足が遠のいていましたが、40 代に湘南ペガサスサッカークラブに入り、40 代、50 代、60 代とそれぞれの年代のチームでプレーをし、現在は65 才以上のメンバーで構成されているトーラス65 でシニアサッカーを楽しんでいます。

60代半ばを過ぎてもサッカーをやっていると言うと、ほとんどの人は驚きます。そして、大概「あの広いグランドで?」と聞いてきます。「そうだ。」と言うと、「それはすごい!」 「で、45分ハーフ?」「いや、20分か25分で。」と言うと「あ、そうなんだ。」と少し納得した顔になります。白髪交じりのおじいさん達が広いグランドでボールを蹴りあっているシーンが目に浮かぶのだろうと思います。そして、「なんで、その年になって?」となります。グランドのお爺さんたちは真剣に、走ったり、歩いたり、休んだり、そしてボールを蹴ったりして楽しんでいるのです。「すり足」で走っているのは若い頃の様に腿を高く上げて走る事が出来なくなったからなのです。本人はカッコよく腿を高く上げて走っているつもりなのですが、、、。それでも、サッカーは楽しいのです。

湘南ペガサスサッカークラブは「来るものは拒まず、去る者は追わず。」をモットーに、創立 40 周年を迎える事が出来ました。現在、40 代から 70 代までのチームで構成され、会員数約 150 名のクラブとなっています。これもひとえに会員一人ひとりのサッカーに対する情熱が結集した結果です。あらためて感謝したいと思います。

シニアサッカーは今後ますます盛んになっていくと思います。人生 100 年の時代です。10 年後には80 代のリーグが、20 年後には90 代のリーグが出来ている事でしょう。

これからも、サッカーを楽しみましょう! 湘南ペガサスサッカークラブに乾杯!

ペガサス・40周年に寄せて

元現役サッカー部顧問 鈴木 中

私の個人記録と併せて、ペガサスの歴史を眺めてみると私の40歳台の頃, 当時の若手 OB が中心となってスタートしたと考えられる。多分岩淵、宮原、 先生にお世話になった。

関東大会で準優勝した、中原さん以前の方が元気だった頃だと想像できる。私が現役を指導していた頃の記録から見ると 50 回生、六角、沢田君の頃だと思われる。40 年前私も校内で一番忙しい時期であった。部活、クラス主任、生徒指導部長、等々で多忙を極め OB と一緒にボールを蹴る余裕はなかった頃だったと思う…

只いつも感じていたことは **OB** 会は○は出すが口は出さないと言う事が徹底していたのは本当に部活指導の上ではありがたかった。ガンさんの力だったと感謝している。ガンさんの影響で、自分たちの楽しむサッカーで決して私の指導に、○は出すけれど、口は出さなかった。他の学校では見られない **OB** が独立した集まりで、現役にとっては、特に指導者にとってはありがたい組織であった。

さて今や高校サッカーはプロの予備軍の時代である。何れ変化してゆくと思うが"湘南"がこれからどう生きて行くか、試練の時である。埼玉県の浦和高校も、静岡の藤枝東高校、も OB 達が心配している。私も老いて来た、湘南高校サッカーも、何か生きて行く道はあると思うが?...

そして今やサッカーは芝生の上でやるスポーツになった。湘南100年、ペガ サス40年、記念としてグランドを人工芝にしては如何かな・・声を大にして 言いたい・・・

そして"ペガサス"のますますの発展を祈ります。・・・鈴木中

神奈川制覇!

湘南高校サッカー部代表顧問 竹谷睦

湘南ペガサスサッカークラブ設立 40 周年おめでとうございます。また、同時に永きに渡り湘南高校サッカー部を応援して下さり、ありがとうございます。 現在の湘南高校サッカー部を代表しまして、簡単ではありますが、代表顧問の 竹谷がご挨拶させて頂きます。

私が平成26年4月に湘南高校に赴任し、現在6年目を迎えております。湘南高校サッカー部に顧問として関わらせて頂き、湘南ペガサスサッカークラブをはじめ、0Bの方々による現役選手への支援や、卒業生への支援、また、引退後も毎年変わらずにサッカーを続けられる環境があるという事に非常に驚かされ続けております。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。毎年2回の湘南高校グランドでの0B会(蹴球際)では、0Bでもあり湘南ペガサスでもある方々が多数グランドに足を運んで下さり、様々な0Bの方々と直接ボールを蹴ったり、話しをさせて頂いたりする機会が定期的に必ずあるということは、現役選手にとって、本当に貴重な場であると顧問一同感謝しております。

湘南高校サッカー部も湘南高校が100周年を迎えるにあたり、同時に創部100周年を迎えようとしております。強豪ひしめく神奈川の高校サッカーにおいては、近年中々思うような結果が残せてはおりませんが、現役選手たちは、高校サッカーを途中でやめることなく、最後の冬の選手権本大会を目指して秋口までやりきっております。その結果、受験勉強とサッカーという過酷な日常ではありますが、例年の進学実績においても素晴らしい進学実績を残してくれています。引き続き、現役選手たちの掲げる「神奈川制覇!」を目標に、基礎基本を念頭に今後も日々精進してまいりたいと思います。湘南ペガサスサッカークラブにおかれましても、今後の益々の発展を祈願しております。

今後とも、湘南高校サッカー部をご支援の程よろしくお願い申し上げます。

見果てぬ夢

第2代代表 井上 孝

湘南ペガサスサッカークラブ結成40年ご同慶の至りです。クラブ結成25周年の頃、『湘南ペガサスのあゆみ』第2集に寄せた拙稿で「良い思い」について述べたことがあります。参加者は、サッカーに関して「良い思い」をしてきたことがあって、体力のある人は依然としてこのクラブで続けており、さらに同様の思いの、より若い人が次々とメンバーに加わっているからクラブが継続するのでしょう。そして40年、運営者の努力で居心地のよいクラブとなっているからでしょう。まことに素晴らしいことです。

結成 20 年目頃でしょうか、クラブの拠点作り、つまりグラウンドとクラブハウスを持てたらいいなあという話が数人のメンバーの間で出ました。これには、試合場探しの苦労が一因にもなっていました。現在のようにサッカー協会公認の存在でなかった、シニアチームは、企業や学校のグラウンドをコネで借りることになり、日程も自由になりません。私もまた、かなり強引な借り方をしました。そんなとき、一定の広さの、現状グラウンドに近い用地がある金額で売りに出されたことから出た自前のグラウンドの話でした。株主会員権の形で、一人 300 万円で、名目会員を入れても80 人の会員数がいればできそうだ、という感じでした。当時は30歳代後半から60歳前ぐらいまでの会員構成だったので、あながち実現不可能というものでもないかと思ったのです。結局、具体的な提案までに至らず、沙汰止みになってしまいましたが、今でも私は惜しかったと思っています。実現していたら、別のクラブライフが楽しめたでしょう。

残念ながら私は、70~73 歳に諸事情から試合に参加できなくなり、現在は、60 歳過ぎからやっていたカヤックを同好の士に誘われて海、川、湖で細々とやるだけですが、いつでも使えるグラウンドでしたら、試合の邪魔にならずにボールを蹴るぐらいはできたでしょう。あるいは、BBQをしたりビールを飲むこともできるでしょう。

湘南ペガサスが結成 100 年を目指し、企業がらみでない本当の意味のサッカークラブができたら、日本シニアサッカーの伝説になりましょう。最後まで、「良い思い」をし続けることになりますね。夢は見続けます。

湘南ペガサスサッカークラブ発足時のエピソード

第3代会長 牧村 英樹

40 年前の私は 70~80 歳までサッカー続ける事など間違っても考えることは有り得ませんでした。改めて 40 周年を迎え、今日まで曲がりなりにもグランドで仲間たちと一緒に汗をかけ続けている自分がほんとうに幸せ者だと強く感じる今日この頃です。

柳川先輩 45 歳を筆頭に岡田先輩・松本先輩・大内先輩達の飲み仲間に私 35 歳が入れて頂いた 5 人のメンバーが菊名駅近くの居酒屋で一杯やっていたのが今から 41 年前のことでした。酒が進につれサッカー談義が盛り上がってきたところで、岡田先輩と私は寸前まで丸紅サッカー部で一緒にボールを蹴っていたことも手伝って、自ずと湘南サッカー部の 0B でクラブチームを創ろうかと言った流れとなりました。チーム名は、僭越ながら私が"羽の生えた駿馬が空に羽ばたく姿"が好きで「ペガサス」の名前を提案しました。酒の勢いもあったのでしょうか、その場で決定しました。

<クラブの組織化>

クラブ発足間もなく、私は仕事の関係で転勤が続き、クラブ発足後の運営(選 手の確保~相手チーム探し~その後の各種大会への参加)に関しましては、今 は亡き大内先輩を始め中原先輩等の皆様方のご努力によりクラブの規模が拡大 されていきました。50 歳頃に神奈川の方に戻って来、再びペガサスに戻らせて 頂きました時にはかなり活発な活動が成されていました。クラブの初代柳川代 表から2代目井上代表へと引き継がれクラブ所属選手も大幅に増加しており運 営側のご苦労も大変であったと見受けられました。運営側のお手伝いをする内 に、井上代表よりご下命が下り止む無く3代目を受けさせられました。最初に 組織化を図る為のクラブ規約作成、年齢別カテゴリー毎のチームの明確化、そ れぞれチーム内の役員の明確化、本部機構のメンバーの明確化、運営の為のチ ーム毎の会費・本部への上納金制度、チームを超えて年齢を超えて一緒に汗を 流し酒を交わすペガサスサッカー祭の開催、モチベーション向上の一環として MVP 賞の設定等々役員の皆様のご協力を頂きながら現在の姿に繋がってきまし た。選手の年齢も40~84歳までとなりカテゴリー別でも7つとなりました今日 のペガサスを創り導いて下さったのは多くの方々のご協力ご支援の結果ではあ りますが、県内・県外共にシニアサッカーの今日の姿を創り上げられた最大の ご功労者は中原先輩だと思います。そのご努力そして挙げられた成果には深く 敬意を表したいと思います。

カテゴリー別の各チームが各種大会で勝ちに行く試合を目指すことは勿論でしょうが、クラブの大事な本流は40代から80代の会員がペガサスサッカー祭等を通じた交流を通して良い意味で互いに刺激(年配者は若い人からのエネルギーを、若い人は年配者から先々の自分の有るべき姿を)を吸収し合えるクラブ環境の持続かと思います。永遠に湘南ペガサスサッカークラブの繁栄続きます様、年代別毎に後輩を育てて頂きます様念じて止みません。

恵まれたサッカー環境

第4代会長 田部井 徹

現在 70 歳の私が今でもサッカーを続けている状態を、昔は想像すらできませんでした。 埼玉県の浦和に住んでいた小学 4 年の時にサッカーと出会い、その後中学、高校、大学、社 会人と休むことなくプレーを続け、サッカー歴は今年で 60 年になります。30 歳に近づいた 頃、まさか 40 歳を過ぎてもサッカーができるとは思っていませんでしたが、先輩たちのご 尽力により神奈川県に四十雀リーグが誕生し、おかげで好きなサッカーが続けられるように なりました。その後シニアリーグは、五十雀、六十雀、七十雀リーグへと発展し、70 歳を 過ぎた現在でも、仲間とサッカーができる幸せを肌で感じています。

その基本は身体が健康であることですが、それと同時に歴史ある湘南ペガサスサッカークラブに在籍しているからこそできることであり、感謝に堪えません。40 代から 70 代まで年代別にチームを有し、生涯にわたってサッカーが続けられる単独クラブチームは、全国的に見てもそうはありません。したがって、所属チームで試合を楽しむことはもちろんですが、合わせてチーム上下の絆もできるだけ太いものにしていくことが、クラブとして大変重要であると考えています。そのような観点から、毎年実施している「ペガサス祭」のようなクラブの全体行事には、できるだけ多くの会員に参加してもらいたいと願っています。「湘南ペガサス 40」に入会したら、いつの間にか「湘南ペガサス 70」でプレーしていたというのがごく自然な流れであり、そのようなクラブ運営ができるのが理想と思っています。

全員参加を考えると試合数の確保が必要ですが、60歳を超えるとGリーグのような県外大会にも積極的に参加していますので、是非皆さんにも参加していただきたいと思っています。健康でありさえすれば、いくつになっても仲間とボールが蹴れる環境が整っていることは、サッカー大好き人間にとって、この上ない喜びであります。

湘南ペガサスとともに

ペガサス 70 代表 小杉溥孝

30 代後半になった頃、小学校 2 年生の次男が地元のスポーツ少年団のサッカークラブに入ってサッカーを始めた。子供の試合を見ているうちに昔サッカーをしていた頃の感情が沸き起こってきて、無性にサッカーをしたくなった。請われてそのチームのコーチを引き受けたが、コーチよりも自分が選手としてサッカーをやりたい気持ちが強かった。同期の小泉親昂君からペガサスの話を聞いたのは丁度その頃であり、是非入れてもらってサッカーをしたいと思った。40歳の誕生月から参加できると言われ、誕生月になって試合に参加させてもらった。あっという間に35年目を迎え、人生の半分近くの時間をペガサスに係わって過ごしてきたことになる。参加当時は名前の如く40雀だけだったが、現在は50雀、60雀、70雀と10歳ごとのカテゴリーが4つ出来上がっている。参加当初は会員が30名弱で湘南のOBがほとんどだったが、それぞれが大学や会社で一緒にサッカーを楽しんできた仲間に声をかけ、カテゴリーが増えるに従い湘南以外の人が増え、今やその数は全メンバーの6割にも達し、会員数170名ほどのビッグクラブへと成長した。

当初の連絡は手書きの手紙で、世話役の大内さんに全部取り仕切っていただいた。そのうち PC が復旧するに従い、私も大内さんのお手伝いをして原稿作成や郵送手続きを手伝うようになった。 Fax が普及するようになると連絡も Fax になり労力も減ってきた。そのうちにメールの時代が来て連絡はすべてメールとなりコストがかからなくなり、会員同士のメールのやり取りも頻繁になって意思疎通がしやすくなったと思う。

40雀の時は県外へ行くこともほとんどなく活動の大部分は県内で行われた。 50雀の時に G リーグが始まり、県外に出かける機会が増えてきた。 60雀の頃になると各地で交流大会が企画されそれらの大会に参加することが増えてきて、 70雀では年に $8\sim9$ の大会に参加している。そのほとんどが 2 日間の大会である。 70雀は 8月を除く毎週火曜日に平塚の馬入ふれあい公園サッカー場で、県サッカー協会の後援で 70雀参加の 5 チームが集まって練習会を行っている。年齢が上がるにしたがってサッカーをする回数が増えてきたが、若い時には想像できなかったことだ。 70歳を過ぎ体のあちこちに故障が増えてきたが、何とか先輩諸兄を見習って、元気に生涯現役のサッカー選手を貫きたいと思っている。

0-60 チームの開始から 0-80 へ

ペガサス 70 前代表 中原 弘巳

今でも継続開催され、湘南ペガサスも毎年参加している歴史ある大会として「刈谷スーパーエイジ大会」がある。1994年開始の60歳以上の大会で、この大会には湘南中学OBメンバーによる「湘南OBSC」が第1回から参加し、その後ペガサスメンバーを加えながら、2000年の第7回からは湘南ペガサスが引き継ぎ、参加カテゴリーをO-70に変更したものの、現在に至るまで25年もの間を連続参加している。このように湘南ペガサス60チームは湘南中学OBチームの伝統を引き継いでスタートしたことで、スムースにチーム作りが出来、そしてその他の多くの大会に参加する足がかりを持つことができた

東日本大震災後使用出来なかった福島県のJヴィレッジが今年2019年に再開された。この施設が出来たのは1997年だが、翌年の1998年にここで60歳以上のチームによる全国 OB サッカープレ大会が開かれた。この大会に出来たばかりの、湘南ペガサス60チームで参加し、全国各地のプレイヤーと素晴らしい天然芝の上でのサッカー、そして試合後の懇親会を楽しんだ。この大会を嚆矢として以降60歳以上の高年齢者のための多くの大会が開かれるようになった。この時期40代でペガサスを創設したメンバーが、丁度60代を迎えた時であり、県内に相手がいないこともあって、県外の多くの大会に積極的に参加した。前述の全国OB大会を引き継いだ「全国シニア」、「ねんりんピック」、「菅平ダイヤモンドエイジ」、「「関東Gリーグ」、「清水スーパーシニア」、等である。

2004年から2007年にかけてはO-70大会開始の時期となり、西日本OB連盟による「福井ロイヤルエイジ」、「東日本ロイヤル」、「全国シニア70」、「清水スーパーシニア70」、「Gリーグ70」、「清水4県対抗」、「静岡フェスティバル」と70歳になってからも多くの大会に湘南ペガサスチームとして参加することが出来た。

そして今やO-75やO-80大会が開催される時期となっている。湘南ペガサスのO-75チームやO-80チームが出来ることを願っている。

以上

年齢(トシ)を感じるこの頃

シニアリーグ理事 ペガサス 70 伊通元康

シニアサッカーを始めて 31 年が経過しているこの頃、にわかに身体の不調が 気になってきた。

サッカーは高校卒業以来ペガサスに誘われる 41 歳までまともにボールを蹴っていなかったことが幸いし、身体の各部位の使い減りがなかったようで、身体の不調には無縁に過ごしてきた。ところが、70 の声を聴くころになっていままで経験をしたことのない「肉離れ」をゲーム中にやり、とたんに身体に自信をもてなくなった。また、前後して「脊柱管狭窄症」の診断を受けて、鎮痛剤が常備薬となってしまった。朝起きると右臀部上部の痛みと右脚脛の痛みで我慢ができず、家内が起きだす前に食事を整え、鎮痛剤のお世話になる始末である。そして、昨年 11 月には左頬上部に皮膚がんの一種である「日光角化症」の症状から、4cm ほど切除手術を受けるはめとなった。この症状は紫外線が原因で、長らくシニアリーグや県リーグの役員を務めて、一日中ゲームの立ち合いでグランドにいたことによる職業病(?)のひとつと思っている。皆さんも紫外線ケアは、継続して忘れずに行ってください。

70歳を過ぎて、なにもそこまで無理してやらなくても言われることがある。とくに

一番身近にいるうるさい(?)女性から。だから、よけいに無理をしているのかも知れない。それでも、県外県内の各チームには膝や腰の痛みに耐え、懸命にボールを追っている方がたくさんいらっしゃる。まわりが何と言おうと、トシを感じても自己責任でサッカーを続けていければと思うこの頃である。

湘南ペガサス40周年記念に思うこと

ペガサス 70 監督 坪井繁樹

私は満40歳になった時に今まで県社会人リーグに参加していた湘南アンテロープスから(22年間所属)同期(湘南42卒)の阿部裕君と一緒に湘南ペガサスに入れて頂きました。私にとって湘南ペガサスは大変に憧れのあるチームでした。と言うのはこのチームは鈴木中先生の指導を受けた方々が大勢いらっしゃるチームなので一緒にプレー出来ることがとても楽しみでした。実際にプレーしてみて感じたことはゲームの組み立て方が皆さんが同じ方向を向いているので(フォーメンション)とても楽しくプレーできました。(ペガサス40時代)

50代ではスポレクで香川、60代では年輪ピックで金沢へ県代表で出場できたことも良き思い出です。この時期には監督としての苦労もあり(大人数の為交代メンバーのやりくり)これもまた今となっては楽しい思い出です。現在はペガサス70で監督を仰せつかっておりますが今までとは違った事を考えております。今までは"勝つにはどうしたらいいのか"がいつも頭の中にあり各プレーヤーに対しああしろこうしろと無理な要求をしていたような気がします。これからの方針はOVER70となると皆さんの個性が前面に出てきてチームとしてのフォーメーションが確立できません。ましてチーム練習の機会が全くありませんのでなおさらです。メンバーの皆様はそれぞれが独自のプレースタイルをお持ちです。足の速い方、ボールキープが得意な方、キック力が優れた方等々。監督としてこれらを総合してゲームを進めていく中で皆様に声を掛けていきたいと思っております。不得意な事をしようとせずに得意なプレーを前面に出していけばミスが減りボールが繋がっていくのではないでしょうか。その結果勝利できればハッピーです。これからもできる限りこの湘南ペガサスに係わり微力ながらお役にたてるよう頑張っていく所存です。

湘南ペガサスに入会して

ペガサス 70 磯谷兵衛

湘南ペガサス設立 40 周年おめでとうございます。

設立された先輩、継続されてこられた先輩に敬意と感謝を申し上げます。

私は、昭和 44 年県立川崎高校卒業ですが、勤務の関係で全国を転々としており、本格的にシニアサッカーをするようになったのは 57 歳で地元に帰ってからです。川崎四十雀でプレーしていましたが、2014 年、65 歳の時に、清水遠征に参加してから、湘南ペガサスに入会させて頂きました。ポジションは、主にGKで、シニアリーグは川崎でプレーし、G リーグや遠征では湘南ペガサス 65 に参加させていただいていました。今年、70 の資格ができてからは、本格的にペガサス 70 でプレーするつもりです。

湘南ペガサスに入って間もない頃、シニアリーグで川崎とペガサスが当たり、 ペガサスの選手の足が私の膝の外側に当たり、力が入らなくなって、退場した ことがありました。そのとき、歩けない私をピッチの外に運んでくれたのは、 チームメイトの川崎ではなく、対戦相手のペガサスの選手でした。このときが、 私の本当のペガサス入会の時かもしれません。

GKは、ストレスの多いポジションですが、ペガサスでプレーするときは、あまりストレスを感じることはありません。「サッカーは少年を大人にし、大人を紳士にする」ペガサスには紳士が多いのかもしれません。GKとして一番大切なことは、華麗なセービングではなく、フィールドプレーヤーからの信頼だと思っています。そのためには難しいボールを取ることよりも、何でもないボールをミスせずに確実にキャッチすること、そして正確なポジション取りが一番大切で、セービングしなければならないような場面は、実は GK としてはあまり好ましいことではありません。

ゲーム中いたかどうか分からない理想の GK を目指して、これからも皆さんと一緒に生涯スポーツとしてサッカーを楽しみたいと思いますのでよろしくお願いします。

トーラス 60 発足の経緯

トーラス 60 代表 浅倉泰

湘南高校サッカー部同期、今は亡き山口晴夫に誘われて湘南ペガサス(40)に入会し、はや30年になろうとしています。その間活動の濃淡は有りましたが一貫して湘南ペガサスに籍を置き、サッカーを楽しませて頂いている事にまず感謝したいと思います。現役時代はこれといった実績を残せなかったのですが、50になって上のチームに移籍した2002年に神奈川シニアリーグで無敗の優勝、そして神奈川代表として関東大会への出場と夢のような体験が出来ました。このまま続けて行けば全国大会への出場の可能性もあるのではと思っていた頃も有りましたが、現実はなかなか厳しい模様です。

さて湘南ペガサスに入ったのに「なぜトーラス 60 なのか」についてその経緯を纏め ておきたいと思います。2018 年のシーズンを迎えるに当たってペガサス 60 は問題を抱 えていました。それは次年度に50から60に上がる選手が多く全員が上がった場合参加 者が多くなり、試合出場の機会が大幅に減ってしまう事が危惧されました。そこで 60 を2チームに分割できないかという事が議論されました。まず一番の問題はシニアリー グが同一カテゴリーに兄弟チームの加盟は認めないとのルールが有りました。過去、ペ ガサスは 40 雀ではペガサス A と B、50 雀ではペガサス 50 と 55 の 2 チームエントリー をしてきましたが、その後新たなルールが出来たわけです。そこでシニアリーグの理事 をしておられた伊通先輩にその可能性を打診していただき、「違うチーム名でユニフォ ームも違えばリーグとしては拒む理由が有りません、但しチーム名に湘南が入るのは NO。」との事でした。もう一つの問題は二つに分割して果たしてそれぞれのチームで毎 試合人数が集まるのかという点です。年齢を重ねると怪我による離脱が多くなり、シー ズン初めは多過ぎる位の参加がありますが、シーズン終わり頃はギリギリという事も容 易に想定できました。ペガサス 60 の代表をしていた私がメンバーの過去の参加率を分 析して、ここまで新チームのメンバーにしなければ分割は見送りましょうとの提案を行 い、当初は65歳以上で区切るところを64歳まで下げました。ペガサス幹事会でその案 について議論を尽し、最終的には出場機会が増えれば参加率も上がるでしょう、との森 会長の裁断で 2018 年シーズンは 2 チーム体制で臨む事に決定しました。名前も森会長 の提案で星座名に因んだペガサスの延長でトーラス(牡牛座)に決まりました。

新チームの代表になった私はシニアリーグの新規加盟チームの審査会で面接を受け、めでたく 2018 年度は湘南ペガサス 60 とトーラス 60 の 2 チームでのスタートになりました。2018 年度は棄権試合も無く、無事終了しましたが、トーラスの最終戦は最後まで参加者 8 人でもう棄権かという時に膝の手術直後の坪井さんが参加してくれる事になり、私も腰を痛めて 1 ヶ月運動をしていませんでしたが立っているだけ参加をお許し頂き、不名誉な棄権を回避する事が出来ました。チーム登録時にお世話になった伊通先輩の顔を潰さずに済みホッとしました。唯一の誤算はペガサス 60 が 1 部から降格し、2019 年度は同じ 60 雀 2 部で戦うことになった事です。(追補 2019 年度 2 部優勝で 1 部に復帰)

交通事故からの復活!!そして生涯楽しむ

- 復活までに18ヶ月 -

トーラス 60 河西博康

それは、51 歳の秋に起こりました。平成 16 年 10 月 14 日、400 c c のバイク に乗って自宅前の交差点を青信号になったので直進、何が起こった??跳ねられた !! 4 t トラックが、40~50m先に止まっているのがアスファルト上に横たわって いる私の目に入った。次に見たのは右足の爪先が、ありえない方向を向いてい た。湘南鎌倉総合病院で緊急手術(右脛骨解放骨折)、洗浄、デブリドーマン、 右脛骨 ORIF 、1 回目の手術でした。3回の手術でデブリドーマンが終わり縫 合。リハビリ通院となりました。床にフェイスタオルを敷きその端に足を乗せ、 足指でタオルを手繰り寄せること。出来ない!指が動かず毎日の進歩がない、 歯がゆさが辛さになり諦めが走った。通院時だけやっていました。今、思えば 辛くても、諦めずに寸暇を惜しんでやっていればもう少し足首も指も動いたか なと後悔しています。やっと骨が着き松葉杖もとれ、17年11月から出社。事故 から13ヶ月経っていました。次は、ペガサスへの復帰だ、サッカーがやりたい。 日曜日には、鵠沼海岸まで引地川沿いの約4km を走りました。が、やりすぎま した。右拇趾陥入爪で出血6回目の手術でした。反省です、痛かったら止める。 焦ってはいけない!!続けること諦めない事。身体と相談しながら進める事で した。だが、無情にも18年2月「右足首機能喪失症状固定」と診断されショッ クを受けました。少しずつ走れるようになった事を良とし、受け入れていきま した。

ペガサス復帰の日は、18 年 4 月 15 日大神グランドだったと思います。この日から手帳にリーグ戦の予定が記されております。18 ヶ月間、やりたいと願っていたサッカーをさせて頂きました。皆さんが暖かく見守って下さった事を強く感じました。"復活!!"です。ご心配をお掛けしました。お見舞いや、励ましを頂きありがとうございました。特に嬉しかったのは、平成 18 年 8 月 27 日ペガサス祭りのピッチ(東海大相模)に帰ってきた時です。懇親会で皆さんから励ましの拍手を頂いたこと、一生忘れません。

40歳の時、鵠洋アーセナル少年サッカーのコーチ仲間、黄瀬さん、角田さんから誘われてペガサスに参加致しました。そして今、傷害があっても生涯楽しむサッカーができます。皆さんに見守られています。湘南ペガサスに感謝しかありません。これからも宜しくお願い致します。 湘南ペガサスに乾杯!

小生とサッカー

ペガサス 65 代表 黄瀬 直彦

湘南ペガサス創立40周年おめでとうございます。

小生がサッカーと関わったのは高校(茅ヶ崎北陵)入学してからです。小学生(鵠洋小学校)の頃は、野球漬け。中学(鵠沼中学)はサッカー部が無く卓球部(ピンポン)にて小さい球と戯れていました。大学(東海大学)では、 $1\sim2$ 年時は札幌で雪の無い時期だけボール蹴り、 $3\sim4$ 年時は清水(折戸)でボール蹴りでした。

大学卒から 30 歳代まで藤沢の社会人チームに居ましたが、40 歳になっても 20 歳代と 一緒にプレーするのかなぁと思っている時、湘南ペガサスと出会いました。

社会人チーム時代の先輩も居て、楽しくサッカーを続けられています。

楽しいので歳を重ねても、O-40、O-50、O-60と続いています。

古河マスターズ大会も、他都県チームとの交流試合も楽しく、チーム仲間との昼・夜と もエンジョイしました。

O-60になって、Gリーグにも参加するようになりました。

Gリーグは関東圏のシニアチームが参加している大会です。順位を争う大会でなく、エンジョイする大会です。

カテゴリーはO-60、O-65、O-70、今年からO-80も追加になりました。

県外大会は、1 泊 2 日の日程が多く、参加人数の確保が難しくなってきていますが。試 合の後の宴会は楽しいですよ。

現在小生は、湘南ペガサスで非公式なO-65の監督をしています。今後も多くの県外 大会に参加したいと思っています。皆さんどんどん参加しましょう。

また、2019年4月よりGリーグ運営会事務局を引継ぎました。

今後、Gリーグ情報を発信しますので皆さん受け取って下さい。

これからも、湘南ペガサスのO-70、O-80にて楽しくかつ体力を維持(もう向上はないでしょう)してサッカーを続けて往きたいと思っています。

皆さん宜しくお願いいたします。

以上

湘南 vs 栄光

ペガサス 65 角皆茂樹

昭和28年9月6日、国体県予選2回戦。この試合が湘南高校と我が母校栄光学園の最初の対決であった。対決といっても当時湘南は輝かしい実績を誇る強豪県立高校、栄光はサッカー部創部からまだ日も浅い無名私立高校、勝負にならないと思われたが、0対1と善戦し、爾来両校は、ほぼ毎年公式戦や練習試合で対戦してきた。その時期、栄光サッカー部では現役部員が「ダッシュ」という機関誌を毎年発行していて、廃刊となった昭和38年までの熱戦が選手達の手で生々しく記されている。

その間の対戦は計 14 回。中でも大一番は、昭和 36 年の関東大会予選の準決勝だったようだ。場所は昔の県営藤沢グラウンド、勝てば本大会出場とあって湘南は女子高生を含む約千人にブラスバンドを加えた賑やかな大応援団を送り込んできた。栄光も負けじと、男ばかりの中高生と先生の百人ほどが大声で対抗し、試合は激闘延長の末、栄光が 2 対 1 で勝利を掴んだのである。(後日湘南も本大会への出場権を得て決勝まで勝ち進んだが、浦和市立に敗れて優勝を逃した。)全14 試合に於ける得点は、湘南の 29 に対し栄光は 22、勝敗は 6 勝 6 敗 2 引分の全くの五分であった。

また「ダッシュ」には、湘南の岩淵先生・鈴木先生のお名前が頻繁に登場する。 とりわけ当時神奈川県サッカー界の重鎮でおられた岩淵先生に、栄光の悪童達は 度々厳しいお叱りを受けたようだが、こんな記事もある。昭和 31 年のインター ハイ予選決勝(対甲府商)で、「栄光の応援に来て下さった岩淵先生、栄光勝利に 我が事のように喜ばれ『オメデトウ』と外套のポケットからミカンを二つ選手に 握らせる。皆一フサづつ分けてもらって『岩淵さんのミカンだ』とうやうやしく 口に入れる」。

その時代から半世紀余りが過ぎ、今の高校サッカーに残念ながら強豪校としての両校の名前はない。しかし、60 雀サッカーでは湘南ペガサスと栄光シニアが、昔と変わらず互角の戦いを続けている。筆者は栄光シニアを経て、数年前に長年のライバルであったペガサスの一員に加えて頂き、来年はいよいよ O-70 である。そしてこれからも体が動く限りお世話になる積もりでいる。

末筆ながら湘南ペガサスの創立 40 周年をお祝い申し上げ、今後のますますの 飛翔を祈る。

湘南ペガサス40周年記念寄稿

湘南ペガサス総務 60監督 菅浦 義治

湘南ペガサスが設立された40年前、私自身はまだ20代前半、その頃は一生 サッカーを続けるか否か、などと考えもしませんでした。いや、考える環境が 無かったといった方が正しいかもしれません。ところが、今では40代から7 0代まで県リーグほか、県外の大会もたくさん有り、健康であればカー杯サッ カーができ、私自身も現在60才過ぎて依然としてサッカーが出来る環境があ ります。これはひとえに、ペガサス設立からご苦労いただいた柳川先輩・中原 先輩・井上先輩をはじめとする諸先輩方々のたいへんなご努力の結果と、今更 ながらに感謝する次第です。そのような中で、私は死ぬまでサッカーを続ける と決心し、老化する身体と対決しながらサッカーを続けている今日この頃です。 また、その身体を維持するために協力いただいた湘南高校サッカー部の後輩に も感謝しています。私は一昨年の10月サッカーの試合中に左肩から地面に落 ちて鍵盤断裂という意外にも重い怪我をしました。近隣で周知の整形外科に一 年近く通院しましたが、痛みが取れず医師の信頼が薄れていました。そのよう ななか、湘南高校サッカー部OBの後輩である鈴木栄一Dr(55回)・大沼D r(59回)にメールで助けを求めたところ、二人とも即日返事をくれました。 そして、鈴木Drの紹介で八王子整形の中井Drに手術をしていただきました。 今現在は、痛みも取れ筋力アップに励んでいるところです。

そのような経緯からも、私のサッカー人生は湘南ペガサスと湘南高校OB会に ご恩があるので、そのご恩返しをすべく今後活動し、湘南高校サッカー部OB 会の維持・継続・発展と共にその人脈を通じて湘南ペガサスの維持・継続・発 展に尽力する所存です。

鈴木中先生に還暦の時にいただいた色紙の「継続は力なり」を座右の銘にして、 これからも自身のサッカーを継続するだけでなく、湘南ペガサスの維持・継続・ 発展に貢献したいと思います。

湘南ペガサス 40 周年に寄せて

ペガサス 60 小石 巌

2009年からお世話になり、早いもので今年で11年目になりました。

まずは50で4年間プレーしましたが、毎年横須賀と優勝争いが出来るほどの強いチームで楽しかった思い出があります。

特に記憶に残っているのは全国シニアの県代表決定戦で勝てば関東大会という 大事な試合に負けて、各県の2位チームで行われる関東シニア大会で雪の降る 保土ヶ谷球技場で千葉や埼玉のチームと試合が出来ましたが、やはり関東大会 に出たかった悔しさが残りました。

50 代も半ばになると FW としてのスピードが落ちてきたので、2013 年から 55 に 移籍して連絡係や監督を経験させて貰いました。

その間、大学サッカー部の後輩らやメンバーの友人らをチームに加入して貰いチーム力の向上ができ、2016年のシーズンでは2部で2位という戦績を残し初めて1部昇格という快挙となりました。

監督をするのは初めてで、ペガサスの基本方針である全員出場と勝利という二 兎を追う難しさはありましたが、毎試合前日までに連絡係や主将とメールで戦 術、戦略の意見交換をして試合に臨み、試合後のミーティングでは全員に発言 して貰いチーム内のコミュニケーションレベルを高く保つことができました。 50 才を過ぎて新しい友達を作るのは難しいと言われますが、このチームのメン バーとは苦楽を共にしたという体験を共有ができたので、今後も繋がって行け ると思います。

とにかく飲み会の機会が多かったです、笑。

還暦を迎えて60のチームに移籍し現在2年目で連絡係をしていますが、何とか1部復帰が出来るようにプレーヤーとして頑張っています。

50、55、60 と 3 チームでプレーして感じることは、ペガサスという伝統ある立派な組織があるのでシニアサッカーライフをエンジョイ出来る環境には感謝しかないということです。

70 才以上の先輩方も頑張っておられるので我々の目標になっています。 今後もペガサスでシニアサッカーライフを楽しみたいと思います。

お楽しみはこれからだ

ペガサス 60 吉田京太

ペガサス入会は、横浜市泉区に住むようになり、大学サッカー部で一緒だった八木啓太さん(昭和52年 湘南高卒)に誘われたのがきっかけでした。メディア関係者が多いサッカーリーグで出会った関佳史さん(昭和48年 湘南高卒)からペガサスの存在を聞いてもいました。

40 代で入会して印象深かったのは、夏のペガサス祭の懇親会で 50 歳、60 歳 はおろか 70 歳の方たちも嬉々としてサッカーを語られる姿でした。「このチームにいれば、生涯ボールが蹴り続けられるな」との思いを強くしたのを覚えています。

東京生まれですが、幼稚園の時に父親が転勤になり、高校卒業まで広島で過ごしました。その広島の高校の先輩と神奈川県のチームであるペガサスで一緒にボールを蹴られるようになったのもありがたいことでした。全国優勝の経験もある坂井さんはじめ、豊田さん、上田さん、後輩の宮﨑君(50 チーム)らです。

関さんと一緒にドイツW杯観戦に行った際、ツアー途中に鈴木中さんや福井 民雄さん(昭和41年 湘南高卒)一行のバスに便乗させていただき、ケルン大 聖堂などを巡ることができたのも「ペガサスの恩恵」でした(笑)

肝心のサッカーの戦績はと言うと、ペガサス 50 チームのころ、当時は横須賀 F C が断トツに強く、他のチームには負けないのですが、リーグ戦でもトーナメントでも常に横須賀の後塵を拝する「シルバーコレクター」でした。いつも 2 位まで勝ち上がっていたことは誇りに思いますが、一度優勝したかったなあ。

今年からペガサス 60 チームに加えてもらいました。70 チームまで先は長い (笑)。お楽しみはこれからだ。

湘南ペガサスとの出会い

監督 福井 康展

この度は、湘南ペガサス設立 40 周年を迎えられ誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。今回、40 周年記念誌への寄稿ということで僭越ではございますが、私と湘南ペガサスの出会いと今までの思い出を書かせていただきます。

私とペガサスとの出会いは、18年前くらいかと思いますが、私が40歳になった頃、 同郷の高校サッカー部 (広島市立舟入高校) OB の川本さんから誘っていただきペガ サス 40 に参加させて頂くことになったのが最初の出会いです。40 雀のチームには 4 ~5年参加させて頂きました。シニアサッカーは想像以上に激しいプレーで驚きもあ りましたが、真剣勝負が出来る喜びもありました。その後、仕事で大阪へ単身赴任で 転勤となりペガサスは休部となりました。単身赴任が3年半で終わり神奈川へ戻った 後も、息子の高校サッカー(湘南工科)応援に専念したため暫くは休部のままでした が、ペガサス60の元松さんから毎年年賀状にてペガサス復帰のお誘いを頂いており 52歳の時にペガサス55に再び参加させて頂きました。ペガサス55では偶然ですが、 驚きの再開がありました。何と高校サッカー部同期の松本君が同時期に入部していた のです。松本君は関西大学 OB の小石さんから誘われたらしいですが高校卒業以来何 十年ぶりの再会がペガサスでした。またそれだけではなく現在60シニアの加賀山さ んとも前職の三菱化学時代の先輩ですが、偶然、ペガサス 55 でご一緒することにな りました。ペガサス55メンバーは、高校同期(後に同期の長尾、土屋含め4名同時 所属)、前職のサッカー先輩とも同じチームでプレー出来て、県リーグでは2部優勝 1部昇格(翌年降格しましたが)も果たし本当に楽しい時間を過ごすことが出来まし た。湘南ペガサスは湘南高校 OB だけでなく地域や学校のサッカー繋がりや友人繋が りも幅広く受入れて頂いているところが素晴らしいと思います。

さて、現在(6/14)のペガサス 50 の近況をご報告します。2019 年度 4 月よりペガサス 50 の監督を拝命いたしましたが、県リーグの成績は 5 戦全敗。残り 2 試合全力で戦う所存ですが、残念ながら 50 雀 2 部の残留は非常に厳しい状況です。私の監督就任早々不甲斐ない成績となり誠に申し訳なく感じております。ただ、チームメンバーも年々高齢化が進んでおりこれが現状ペガサス 50 の実力かとも思います。是非、若手の新規加入をお待ちしております。私としては、試合の勝敗も勿論大事ですが、一番大切にしたいのはメンバー一人一人が勝つためにはどうすれば良いか真剣に考えること、毎試合での反省点を次の試合では改善しチームとして少しずつでも成長すること、その結果、勝利しチーム全員で喜びを分かち合うことが出来れば最高だと考えております。今後も湘南ペガサスメンバー全員がサッカーをいい意味で楽しめるよう微力ながら尽力してまいりますので皆さまご支援の程よろしくお願いいたします。

最後に湘南ペガサスの今後益々のご発展と皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。

創立 40 周年おめでとうございます

ペガサス 50 新川 茂

"湘南ペガサス"と言えば? すぐに思い浮かべるのは「ペガサス」という チーム名でしょう!!

「ペガサス」が何という意味の言葉かはよく知りませんでしたが、名前が良いので、このチームに入れてもらって良かったと思いましたし、楽しい気分になれました。

他チームにも知り合いができて話しをする機会も増えていきましたが、他チームの人たちは決して「ペガサス」とは言いません。必ず「湘南」と言いますね。これはきっと他チームがカッコ良い名前にひがんでいるからだと私は確信しました。

Jリーグ「湘南ベルマーレ」は、本当は『ペガサス』と名付けたかったのではないでしょうか?こんなベルマークみたいな名前ではポイント貯めたら景品がもらえそうですが、サッカーをやってる人にはピンと来ない名前でしたね。今ではすっかり定着していて違和感はありませんが。

神奈川県の他チームは学校や地域の名前が多くてシンプルで良いのでしょうが、ペガサスのようなカッコいい名前はありません。最初にこの名前を付けた 先輩方の感性に賞賛の拍手を贈ります。

ペガサスの活動の中で困ったことは審判担当の仕事でした。リーグ戦開始前に各チームの審判担当が会議に呼ばれるのですが、そこで渡される資料がわかりにくくて理解に苦しみました。ここは湘南高校出身者の頭脳明晰な方が審判理事会に加わって、誰にでもわかりやすい資料を作って欲しいと毎回思っていたことが思い出されます。今でもダメな資料を使い続けているようです。早く何とかしてください!

千葉県出身の私には横浜の先は戸塚か保土ヶ谷、でもその先の駅名はさっぱりわかりませんでした。そんな私でも今では小田原までの駅の順番が完璧にわかります。さらには"湘南"という地域を知ることができ、なんだか得をした気分です。これも湘南ペガサスのおかげです。

湘南ペガサスの更なる発展を祈念しています。

ペガサスとの出会い

キャプテン 田中晃

サッカーは 10 歳から始めており、現役を 45 年続けておりますが、ペガサスには 50 歳からお世話になっております。

50 歳にもなると、自分のサッカー感があり、自由気ままにサッカーに参加してましたが、初めてのシニアリーグへの参加は自分にとって新鮮でした。50 雀でいうと、全くの新人であり、雑巾がけから始まり、試合では若手として献身的に走りまくることが要求されます。

5年前のペガサス55は、素人集団であり、ボールを蹴れない、止めれない、 走れない、メンバーはぎりぎりと、今までにないチーム構成でした。

当時 2 部リーグで下位を独走していた中で、3年で2部リーグ優勝までのチームになれた過程がかつて経験にない、熱い3年間でした。ぼろ負けした後でも、反省会と称した飲み会で熱く語り合い、次戦に生かしていく。素人集団でも、意思疎通ができることでチームは見事に再生できることを実践できた3年でした。

サッカー好きが集まる、熱いメンバーに囲まれて、サッカーができましたこと。また、インテリも多く、紳士的なペガサス。当たり前のように接してきましたが、非常に恵まれていることに気づき、日常生活への活力を頂いてきたことに感謝しています。

今回の記念誌へのコメントを書くにあったって、5年間を振り返る良い機会 となりました。

最後にまとめのコメントは残しません。To be continue.

シニアサッカーの面白さ

ペガサス50 椿 茂樹

私は2年前にペガサス50のシニアチームに参加させて頂きました。ペガサス50の現代表の藤原さんには神奈川県逗子市の少年サッカーの関連でお世話になり、そのご縁からお誘いを頂きました。ボールを蹴れる機会が増えるならと深く考えずに承諾、参加させてもらうことになりましたが、今回寄稿にあたり、15周年、25周年の記念誌を拝読させて頂き、その歴史の長さや諸先輩方の熱い想いやご苦労に唖然としました。すごいチームに入ってしまったなと。これからはもっと気を引き締めてペガサスに参加したいと思います。(笑)

私は小学校では鎌倉市のクラブチームで中学と高校は学校の部活動でサッカーをやっていましたが、シニアサッカーは子供時代のクラブや部活動のサッカーとはこんなに違うのかと驚いています。シニアの最大の特徴はメンバの皆さんがとても個性的ということだと思います。性格が個性的というのもあるのですが(笑)、今までやってきたサッカーの違い、好むプレイスタイルの違い、年齢や体力の違いだけでなく、仕事や家庭の関係で普段体を動かす時間がとれる/とれないとか、サッカーを継続してやっている/ブランクがあるなどの多様な個別の事情があり、実に様々な個性になっているように思います。大人になるとこんなにいろいろなサッカーがあるんだなと変に感心しています。最初は少し戸惑った面もありましたが、今はその個性が何かの縁で集まったチームで、ワイワイ言いながら、ボールを蹴るのを楽しんでいます。これらかもよろしくお願いします。

湘南ペガサスとの出会い

ペガサス 50 山本 純弘

私が湘南ペガサスチームにお世話になってから早や13年が過ぎた。 2000年の鎌倉移住を機に、以前から知合いだった湘南高校サッカー部 OB の方から「オッさんチームなんだけど一緒にやらないか?」とお誘いを受けたのがキッカケだった。 当初は現役世代サッカーへの未練と「まだまだ自分はヤレる!」との自惚れから生意気にもお断りをしていたが、数年後には自身の体力低下を悟り活動の場を地元湘南地区に移す事にし、2007年シーズンから本格参戦させて頂いている。

湘南高校グラウンドでの蹴球祭に初めて参加した折、年齢の近そうな方から 私の父とほぼ同世代と思われる方までが青春時代さながらに、グラウンドを駆 け回り、声を出し、ボールを追いかけ、ゴールを決めて一喜一憂しておられる 姿を拝見し、もし今後も続けるとしたら「中途半端な気持ちじゃいけない!」 と気持ちを新たにした事を覚えている。

加入後は 40 代のチームで活動させて頂きながら 5 年目に転機を迎える。「全国選手権大会 Best16 世代」との出会い(加入)でチームの方針転換を図った。 功罪両面を合わせ持つ転換であった為、チーム運営(2011 年途中~監督代行、翌年に監督)には正直苦労したが、その末のリーグ優勝、カップ戦制覇、昇格など目標としていた結果を次々に得られた事は、共に戦ってくれたメンバー全員に加え、お会いする毎に励ましの言葉をかけ応援して頂いたペガサスシニアの先輩方のおかげだと思っている。

今、ペガサスシニア 50 で活動させて頂いているが少々苦戦している。昨年から諸事情で帰省の回数を増やしている為、試合に参加できない事も多くチームには迷惑をかけている状況だが、何とかしてこの苦境を乗り越えたいと思う。

現役高校生から 80 歳超の OB チームまでが脈々と連なるコミュニティーは全国を探しても「湘南ペガサス」だけではないかと思う。そこの一員として活動させて頂ける事に感謝しつつ且つ先輩方に負けないようこれからもグラウンドでボールを追いかけたいと思っている。

思いで広がるペガサスの翼

ペガサス 40 代表 大 隈 俊

30 代後半まで続けたトトカルチョ湘南を引退した後、私生活の忙しさもあり数年間サッカーから離れていた。しかし先にペガサスに加入した同期達が試合後に楽しそうにアイスを食べている姿を Facebook で見ているうちに自分もまたサッカーをやりたくなって 2014 年の 42 歳の時にペガサスに加入することにした。とは言え元々高校時代もずっと B チームだった実力に加えてブランクで思うように体も動かず、最初はあまり戦力になれずにいた。このままでは加入した意味がないと思い、毎日腹筋をしたり、時々リフティングをしたり、フットサルの個人参加をしたりしているうちに少しずつ筋力と技術が改善して次第に試合出場機会も増え、多い時で年間 2 得点することもできるようになった。

それでも試合での貢献度が高いとは言えないので、せめてそれ以外のことでチームに貢献しようと思い、2015年から広報担当としてHPに掲載する試合の戦況報告レポートを執筆するようになり、2017年に神奈川シニアサッカーリーグ四十雀1部の副競技委員、2018年に正競技委員となり、本年2019年にはチームの代表にまでなってしまった。ただそうした役に就き、チームやリーグの代表として人前で話したりすることで他チームやペガサスの上の世代の人達との人脈が広がり、元々あまり社交的とは言えなかった自分が積極的に人と関われるようになっていった。

また自分が実際に運営に携わることで、これまでも多くの諸先輩方が湘南サッカーを支えてきたのだと気付くことができた。一生サッカーを続け、何歳になっても成長できる場があるというだけでも簡単なようで実は難しいことだと思う。実際にそこに魅力を感じて参加している非湘南高校出身者がペガサス 40では現在約半数を占めている。そうした1人1人の思いが1枚1枚の羽のように合わさってペガサスの翼となっているのだろう。その翼がさらに大きく広がってペガサスが50年、100年後も天を翔け続けていることを願っている。

お前も当然入るよな?

ペガサス 40 監督 井上 毅 彦

そんな有無を言わせないニュアンスを、少し前に加入した一つ上の先輩方の話の行間から素早く読み取り、39歳11ヶ月でペガサス40に加入してから間もなく8年。当初は、諸先輩方から下にも置かない扱いを受け、プレーは好き勝手にさせていただきましたが、それが加入したばかりの若者(?)のチーム定着を目論む戦略的配慮とは察知できず、何のストレスもなく暢気にサッカーを楽しんでいたところ、潮目が徐々にそしてさり気なく変わり始め、最初は軽い感じで審判担当に、何だかよく分からないうちに代表に、これでお役御免と思っていたところで監督就任。謙虚にいろいろ引き受け過ぎたことを反省しつつ、この原稿がリリースされる頃には解任されていることを願ってやみません。

大学生になってまず湘南クラブでお世話になり、トトカルチョ湘南の創成期に立ち会い、そしてペガサス 40 へと、まさに湘南サッカーをフルコースで堪能中なわけですが、この歳になってもなお、勝つ嬉しさと負ける悔しさを日常的に味わい続けられるのは、とても幸せなことで、偏(ひとえ)にこのチームのお陰だと思います。また、ペガサス 40 にはサッカー部 0B 以外のメンバーも多数在籍していますが、戦力的に中核を成しているばかりでなく、人間的にも魅力的で、ピッチ内外でとても良い刺激となっています。ペガサス 40 に加入していなければ交わることがなかったであろう彼らとの縁を繋いでくれたこのチームには感謝するほかありません。

最後に、湘南サッカーの中心は何といっても現役生です。彼らに対しては当然「がんばれ!」という想いでいっぱいですが、我々もピッチに立つ身である以上、その「がんばれ!」が説得力を持つよう、たとえシニアリーグの舞台であっても結果を出し続けていきたいと思います。ペガサスも現役生とともに頑張りましょう!40周年、おめでとうございます!

湘南高校との僥倖

アンドウ アキヒロ ペガサス 40 安藤 聡 祐

1. 初めに

私は20代まで関西を拠点にプレーを続け、30代で関東に転職してからは神奈川県リーグに舞台を移しました。40歳直前に、会社の先輩である田中敦氏(60回生主将)にペガサス40にお誘い頂いて以来、神奈川県シニアリーグでお世話になっております。

一見、湘南高校と何の関わりも無い私ですが、40年以上のサッカー人生の中で、節目節目に不思議な接点を持ちつつ、今日に至っています。

事の起こりは偶然ないし必然であり、全てには理由がある・・・と感じつつ、備忘録として記させて頂きます。

2. 高校時代

兵庫県立神戸高校でサッカーに本格参入しましたが、入部してからとんでもないサッカー 伝統校ということを思い知らされました。

- ▶ 大正2年、前身の神戸一中時代に創部
- ▶ 全国高校サッカー選手権には、前身の「日本フットボール大会」を含め25回出場6回の優勝経験
- ▶ 日本サッカー協会の大仁邦彌元会長、三菱重工の細谷一郎氏といった日本代表選手を 輩出
- ▶ 日本サッカー殿堂のジャーナリスト 賀川浩氏も大先輩

の歴史にまずは驚愕。我々の代は選手権最終出場から 12 年と一回りしてしまったこともあり、平日の練習はともかく、週末には偉大なる 0B に囲まれ、今では考えられないしごきの嵐でした。1 年の夏合宿ではあまりの辛さに、夜中に脱走を試みつつも、熟睡してしまって朝練を迎えた という自分だけの伝説もあります。

とは言え、滝川第二・神戸弘陵といった私学勢には歯が立たない状況でもあり、公立進学校にとっては全国大会など夢のまた夢 と思っていた高校2年、第67回 高校サッカー選手権において、湘南高校の名前を目にしました。

我々以上の進学校が、旭・日大藤沢・藤沢西・鎌倉・桐蔭学園といった並み居る強豪を突破して全国に進出したこと自体も空前絶後でしたが、上牧・愛知といった関西の強豪に競り勝ち、ベスト 16 に進出したことに、我々周辺も大いに勇気づけられ、ついでに勘違いをしたことを覚えています。

自分たちもやれば出来るかも、と、3年生時は選手権まで残って頑張りましたが、選手権 予選はベスト8で神戸弘陵に涙を飲み、11月で高校サッカー生活は終了。ちなみに、選手 権まで残った5名の浪人率は6割に達し、その中に自分も含まれていた次第でした。

3. 大学時代

一浪の後、関西のとある公立大学に進学しました。今で言う中2病気味の自分は、バブル時代の華やかな大学生活に背を向けつつ、サッカー強豪とは程遠い環境の中、体育会で4年間を過ごしました。ほとんどは最下部のリーグでしたが、半期だけ2部リーグに昇格し、レベルの高い環境でプレーした経験は、今でも自分の中では財産です。

1回生の頃、夏場に関西地区で開催された総理大臣杯のボールボーイを努めました。メイン会場となった神戸中央球技場(現 ノエビアスタジアム神戸)で行われた2回戦、当時関西では無敵の大阪商業大学に対し、慶応義塾大学が挑む一戦をライン際で観戦。大阪商業大学が押し気味に進めつつも0-0のままで進んだ後半の中盤、自分が担当していたエリアの目の前で、豪快なオーバーヘッドによって大阪商業大学を打ち砕いた慶応義塾大学の選手、それが64回生のエース、田村直也氏でした。当時の大阪商業大学のDFは、後のJリーガー揃い。その傑物相手にスーパープレーをした選手はどこ出身? 湘南!? とパンフレットをめくった記憶があります。

ちなみに自分の大学は、総理大臣杯の関西予選の最高は2回戦。だいたいが関西一部の強豪と当たってチンチンに叩きのめされ、暫く心を折られる結果となるため、見ているだけで充分と思っていた大会でした。

4. 青年時代

ちょっと間が開き、2008 年度の神奈川県 3 部リーグで、初めて湘南高校(トトカルチョ湘南)と倉見スポーツ公園で対戦しました。当時 36 歳の自分が守るゴールに対し、20 代の面々が猛攻をしかける中で持ちこたえた前半終盤、FK から巧妙なサインプレーで失点。後半早々も豪快に決められて追加点。1 点を返したものの惜敗。この敗戦が響き、自分のチームはギリギリで昇格戦を逃しました。ちなみに、この時競い合った FC Te-Lette offside の面々は、シニアリーグでも我々とつばぜり合いをしているオフサイドならびに鎌倉シニアで顔を合わせ、思い出話に華が咲きます。

5. 湘南ペガサス時代

2011年11月6日@足柄上合同庁舎 神奈川県シニアリーグ3部中沢戦でデビューさせて頂きました。20人を超えるメンバーの中、高校時代を思い出す厳しいシゴキ・・いや、激励に囲まれ、1試合やり切ったと思わんばかりの激しいアップ。本番の試合は全く楽に過ごさせてもらった挙句、たった一回の参戦で3部優勝の瞬間をフィールドで過ごさせて頂き、誠に光栄でした。この時のチームは、若木均氏(64回生主将)を始めとした栄光の選手権メンバーを中心として若返りを図った世代で再編成。その下の65回生と合わせ、自分が憧れだった方々と20数年の時を経て共にプレーできた瞬間でもありました。

2012 年 神奈川県シニアリーグ 2 部、個人的には多少不完全燃焼の年でした。最終的には後半終盤の連勝で 1 部昇格が実現できましたが、9 月 25 日に亡くなられた水上 雅樹 監督に対する関連各位全員の想い、そして矜恃が結実した成果と思います。引き続き行われた議長杯では、小田原・秦野・川崎・横浜シニアを撃破し、決勝まで進出。しかし、決勝では

鈴木 中 先生のご観戦の前で、ライバルの鎌倉シニアに 1-4 と惨敗し、神奈川県制覇を出来なかった悔しさの中で終焉を迎えました。

2013 年 神奈川県シニアリーグ 1 部。山本 純弘 監督の元、強豪揃いのライバルに対して 苦戦の連続なれど、リーグ戦は 4 位。しかし、2 学年下でチームに加わった高校総体全国制 請水東 0B の所賀 貴之氏と松田 庸宏氏が馴染みだした議長杯では 2 年連続の決勝進出。 決勝の川崎戦は、出張で鹿児島に向かう飛行機から眺めた綾瀬スポーツ広場において、出場メンバーの奮闘による逆転勝利で神奈川県初制覇。前年度の雪辱を果たすと共に、湘南ペガサスに歴史を築くことに多少は貢献できました。

その後、1部リーグ戦ではなんとかライバルに食らいつつも2015年2位、2016年3位と惜しくもタイトルを逃して迎えた2017年。若木新監督の元で順調にリーグ戦を勝ち上がり、新参入の八幡正憲氏、小松原高志氏らの大活躍の元、念願の神奈川制覇。湘南高校の多くの関係者に恩返しが出来た瞬間でした。

6. 最後に

充実した 40 代を湘南ペガサスで過ごさせて頂いておりますが、年ごとに自分の身体は悲鳴を上げ、老眼は進み、頭髪は抜け落ちる中、チームメンバの高齢化が進んでいます。また、湘南高校 0B の参戦比率も低下しており、外様メンバーが 5 割を上回る試合も多数です。

未来があってこその過去の積み上げですので、この駄文を見た湘南高校ならびにトトカルチョ湘南の40代を迎える面々の方々は、即座に湘南ペガサス40の門を叩いて頂くことを希望します。

また、8年に渡って共にプレーさせて頂いている同じ年の65回生の方々、意図的に名前は全く記載していませんが、日々感謝しております。極めて派手な思い出って訳では無いんですが、ある時期のよき自分の"時代"として、死ぬ前に思い出せる経験ができたかなと感じる今日この頃です。

サッカーは麻薬。これからもこの常習性から敢えて逃れず、過ごしていく覚悟。

柳川さんの突然の訃報に接し、驚きとともにまことに残念です。

思い出すと半世紀以上も前のことです。私が湘南高校サッカー部現役の頃、毎日放課後になると下駄の音を響かせながら姿を現してくださったのが柳川さんでした。大学の授業よりもこちらの方が優先でした。当時のサッカー部にはコーチの先生はおられませんでした。春や夏の合宿には、多くの先輩方が来て下さり、岩淵先生も駆けつけて戴きました。しかし毎日の練習ではそうは行きません。そこで面倒を見て下さったのが柳川さんです。岩淵先生からの依頼もあったようですが、何よりもサッカーを愛し後輩たちを思ってのことだと思います。サイドキックやワンサイドカットなど基本を一から習いました。私たちが身に付けた基本は生涯役に立ち、その後の湘南ペガサスになっても基本に忠実なパスサッカーのチームと言われます。柳川さんのお陰です。

時が過ぎ、1978年に湘南ペガサスSCを作りましたが、これは柳川さんの東京への転勤祝いの会が発端でした。柳川さんがおられなければ湘南ペガサスは実現しなかったでしょう。その後、クラブは次々と上の世代のチームを作り、後継者チームを充実させて、多くの年代別チームを有するクラブに発展しました。求心力を保ちながら、クラブ組織を拡大していくのは難しいことでしたが、それを実現したのが柳川さんを中心とする運営体制でした。さらに湘南ペガサスは湘南高校現役チームのサポート役として、OB会に強力に協力しています。これも柳川さんが岩淵先生のご遺志を実現されたことです。我々として感謝の気持ちでいっぱいです。

今年湘南ペガサスSCは40周年を迎えました。湘南ペガサスは柳川さんとともに生まれ、柳川さんの見事なマネージメントによって発展し、そして今日の形に成長しました。残念ながら柳川さんは、成長した湘南ペガサスの姿を見とどけながら、私たちの前から去っていかれました。おそらく満足感はお持ちだったかと思います。しかしペガサス祭や納会で柳川さんの締めの挨拶や独特の手締めをして戴けないのは何としても残念です。

ご冥福を祈るとともに、今後ともクラブの発展を見守って戴きたいと思います。

中原弘巳